

枕飾りきしへん

故人の枕元に、枕飾りをつくりまします。基本的には葬儀社が行ってくれますが、遺族がつくる場合はイラストを参考にしてください。

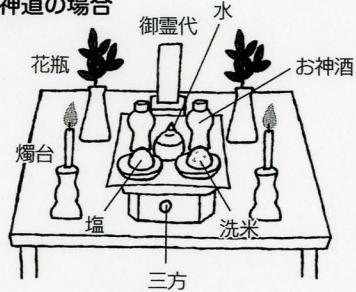
■仏教の場合



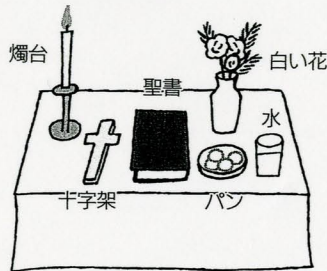
※いずれも地域の慣習によって異なります。

※浄土真宗は一膳飯、枕団子は供えません。また、線香は覆かせます。

■神道の場合



■キリスト教の場合



浄土真宗以外の宗派では、故人の上に魔よけの意味をもつ守り刀を置きます。布団の上に置くようにします。

■神棚や仏壇がある場合

神棚は白い半紙で正面を隠し、神棚封じをします（死の穢れけがを入れないため）。四十九日が過ぎるまで、そのままにしておきます。

仏壇の扉は開けたままにし、お参りはいつもと同じように行ってください。

■枕経をあげてもじり

菩提寺がある場合は、臨終後すぐに僧侶に連絡を入れ、「枕経まくらぎよう」をお願いします。

「枕経」は死者の枕元で、故人を仏の弟子にし、往生してもらうために行う読経です。僧侶が到着したら座布団を出し、お茶とお菓子でお迎えをしてから、お経を